えひめ日本語ネットワークNEWS
第15号 2022. 3

ヒューマンの日本語教師養成講座に参加して

「日本語教師養成講座」を受講し、人生最後の勉強をしている。８年前に退職した後、自分の好きな道を歩んできた。６５歳になった時、「これからどう生きようか」と考えた。今までの自分の人生経験から、「お世話になった外国人に恩返しをすることだ。」と心に決めた。(6年間の海外生活)

令和３年４月に受講がスタートした。科目１から科目１５まで、それぞれ８回の学習があり、１回１９０分のオンライン授業であった。PC の使い方が下手な私にとって、授業内容そのものより、PC の使い方の学習に力を注がねばならないことが、苦痛であった。講師の先生の「○○して。○○出して。」と言う PC用語を使った内容が理解できなくて、泣きそうになったこともあった。

講座への参加者は、９割が若い人であった。ＰＣの使い方などお手の物という生徒ばかりであった。さらに、８回目は試験が組まれていた。老齢の身で遅くまで勉強しなければならなかった。

沖縄から東京までの若い仲間と模擬授業を見せ合ったり、議論しあったりすることは刺激になる。若い者に負けたくないという気持ちが沸き上がってくる。生徒は、日本人だけではない。中国人等の外国人も参加している。彼らの意気込みは半端ではない。資格取得後、世界に羽ばたく気持ちを抱いているようだ。愛媛県にも多くの外国人が住んでいる。今後技能実習生等が増加してくるだろう。彼らに正しい日本語指導ができる教師が多数存在しなければならない。その一人になれればと思っている。

愛媛県で、小さくても日本語学校のような教育施設ができることを望んでいる。日本語教師として、胸を張って仕事ができる環境作りに取り組んでいきたい。

(大塚安彦)

「令和3年度 日本語学習支援団体による意見交換会」に参加して

令和４年２月１０日（木）にEPIC主催のZoomによる「意見交換会」が行われました。「愛媛県の在住外国人の状況と地域日本語教育の今後の方向性」について、愛媛大学国際連携推進機構国際教育支援センター副センター長、高橋志野先生にご講義頂いた後、（１）（２）の活動事例が紹介されました。

（１）HAKUNA MATATA

「ハクナマタタ」という名前の由来はライオンキングの中に出てくる言葉です。スワヒリ語で「何とかなるさ」です。「オンラインでの日本語おしゃべり会」や「日本語オンラインレッスン」、「やさしい日本語(今治版)の普及活動」など、活発に活動し、外国人も安心して暮らせるまちづくりを目指して活動しています。

（２）四国中央市

外国人向け防災研修や「しこちゅ～国際交流フェスタ」などの多文化共生事業と日本語教育事業について市から紹介がありました。日本語教室はボランティアと業務委託を受けた民間で役割を分担しています。対面方式で実施しているボランティアの教室は、実施場所に来られない外国人への対応が課題です。民間の教室は、教科書に「いろどり」を選択しました。オンライン授業内で生活に役立つ情報提供や、終了後には受講者からの相談も受け付けます。難しい相談もありますが、対処のフローを明確にして対策しています。

（１）（２）の活動事例から、多文化共生を念頭に、地域の日本語教室は日本語指導にとどまらず、外国人に寄り添ったサポートが求められていると感じました。多文化共生の社会はみんなにやさしい社会です。そんな社会で一翼を担えるよう、出来ることを増やしていきたいと思います。

(小林圭美)

「生まれる」は受身形ですか

十数年前、学習者から表題の質問を受けた。その頃の私は「生まれる」は他動詞「生む」に対する自動詞としての認識しかなかった。でも形は確かに受動形だし…とは言っても受け身として働く場面は？？手持ちの参考書を開いてみても、もともと「生まる」から変化したらしいということが分かっただけで納得できる答えは得られなかった。モヤモヤした状態が続いていたそんなある日、偶然手にした小冊子に金水敏教授（大阪大学）の「生まれる」とは自動詞か、他動詞かと題した文章に出合った。

日本語の受動文は単に他者の作用を受けるという意味のみならず受ける主体の感情や意志も表現するための表現形式として発達してきた。受動文とは主体性の強い表現である。

（中略）

「生まれる」は「生む」という行為の結果として生じる客観的な出来事というよりは、産み落とされる側の立場に身を寄せた表現と言える。

○ 生まれたての赤ちゃん（赤ちゃんの主体性に着目）

× 生みたての赤ちゃん

○ 生みたての卵

× 生まれたての卵（卵に身を寄せた表現は出来ない）

○ 生まれたてのひよこ（ひよこには主体性が認められる）

× 生みたてのひよこ

「生まれる」は自動詞でありながら受動の形を持つ。

以上　金水説

いつも思うことだが、学習者の質問に触発されて学びのきっかけを与えられ、知識を得ることができる。彼らからの質問は成長に欠かせない大切な栄養素である。「教育」ならぬ「共育」を念頭に研鑽を積みたいと思う。この世に生まれてよかった。

（宇野美登里）

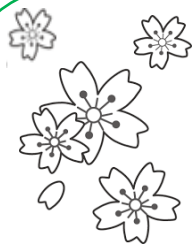
静かなバレンタイン

コロナ禍の今、会社では義理チョコは配らない方向で進み、手作りなどは以ての外という風向きだ。勿論、勤務時間外にプライベートで本命チョコを渡すのは自由だが、そうなると義理チョコしか貰えない夫はシュンとしている。いつもお義理で貰うチョコを嬉しそうに家族に渡す夫には可哀想だが、妻の立場からは喜ばしいことだ。

バレンタインのお返しは倍返しだ。それも何でもいい訳ではない。昔なら、メリーやモロゾフでも喜んで頂けたが今はアンリシャルパンティエやケーニスクローネ以上を求められる。毎年違う物を選ばなければならないし、毎年毎年本当に面倒くさい。コロナの終息は切に願うが、バレンタインの義理チョコは、このまま私には必要ない。私の二人の娘達の一人はバレンタインの義理チョコは苦痛だと言い、自分用のご褒美チョコと父親用のみ買う。もう一人はイベントとして毎年楽しんでいたが、コロナ禍で楽しめなくて寂しいと言っている。

バレンタインの考え方は人それぞれだ。今は、娘達から貰ったチョコをチビチビ食べている夫が可愛いと思う。

(天辰真樹子)



ＪＬＰＴ合格おめでとう！

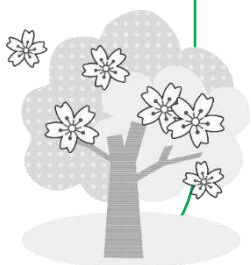
N5合格　カルビン　ラムさん

N4合格　長山　勇人さん

N3合格　グエン　ティ　フェン　チヤウさん

N2合格　葉　沛清さん

ペルー出身のカルビンさんは4月から京都の日本語学校へ、台湾出身の葉さんは東京のパティシエ専門学校でお菓子作りを学ぶ予定。ベトナム出身のチヤウさんは2月に帰国。故郷で日本語を使う仕事を探している。長山さんは日本語でもっと仕事ができるように、次はＮ３にチャレンジ。皆さん、夢に向かってがんばってください。「念ずれば、花開く」です。



問い合わせ先：　えひめ日本語ネットワーク事務局

Email　：　ehime-nihongo@nifty.com